

前回は、「ヘタウマ英語」の特徴として、英語が上手くないのに、その場の空気をつくり、相手と一緒に1つの世界を作ってしまうという、英語を体得するための3か条をご紹介しました。

- 1: 日本語で説明できないことは、英語で説明できない
- 2: 「対話の流れ」を想定した準備をする
- 3: 丁寧すぎる英語は、思い切って捨てる

今回は、その内容を詳しく見ていきましょう。

日本語の基盤があつてこそこのヘタウマ英語

私はある会議で、英語がさほどうまくない日本人が、交渉相手を圧倒する場面に出くわしました。その方(Sさん)は、簡単な英語で堂々と話し、相手の外国人にすっかり認められたのです。法律問題だったので優秀な通訳もついていたのですが、ある場面でSさんの質問に対する回答がズレていたとき、相手はなんと、Sさんではなく通訳に向かって「あなたが間違っているのではないか」と指摘したのです。

私は度肝を抜かれました。ここにはすでに、言葉の壁を超えた、Sさんの専門知識に対するリスペクトがありました。それは、Sさんはだれが見ても、自分が話すべきことを明確に理解していたからです。

仕事で使える英語は、英語力以前に、相手に伝えたいことが明確にあることが大前提です。ですからまずは、日本語で、「この分野なら何を聞かれても答えられる」という自信を持つために、知識の整理を日本語ですることが必要です。これが、ヘタウマ英語3か条の1つ目、日本語で説明できないことは、英語で説明できない、です。

当然日本語のように英語ではスラスラ説明できないわけですから、いかに簡単な英語を使って自分の伝えたい内容を相手に話すかが重要となります。その為には、簡単な英語に合わせて日本語を分解したり、表現を変える、例を用いると言った工夫を意識する必要があります。

「英語発表」ではなく、「対話の流れ」を想定した準備をする

みなさんは英語の会議や交渉の前に、どのような準備をしますでしょうか。私は以前、会議の前に、自分の言いたいことを英語で文字に書き起こ

して、何度もその英語の「発表スクリプト」の練習をしていました。しかし、どうでしょう。この入念な準備は、ことごとく失敗に終わったのです。

考えてみれば、当たり前のことです。会議や交渉は対話の場です。こちらの意見の発表の場ではありません。途中で質問が入り、まったく話が別の方向に行くこともあります。また、発表がうまくできたところで、対話の方向がうまくできなければ、逆にそのギャップが「こいつ大丈夫か?」とかえって不安を与えてしまう可能性があります。

そこで私は、入念な英語の発表スクリプトの準備をやめ、「対話の流れ」を想定した準備をするようになりました。たとえば、「ある程度、議題の内容を相手に説明したら、早々にWhat's your view on this?と相手に聞いてしまおう」、「これを言えば、相手はきっと次にこの質問をしてくるはずだ」のように、頭の中で対話の「脳内将棋盤」をフル活動させるのです。

これが、ヘタウマ英語3か条の2つ目「対話の流れを想定した準備をする」、です。事前準備で対話の流れに着目するようになっただけで、驚くような効果がありました。そのうち、相手から特定の言葉や質問を引き出すために、こちらの説明をあえてざっくりできるようになり、こうした余裕がヘタウマ英語の体得につながったのです。

もし、会議の事前準備に悩んでいるのであれば、「対話の流れ」に着目した英語に意識を向け、英語発表のための準備を思い切って卒業してみてください！

内藤博久(準会員)

100年の歴史を有する米国の法律事務所Moses & Singer LLPにて労働法、企業法務、知的財産権などを専門に扱うニューヨーク州弁護士(現在、テキサス州の弁護士資格申請中)。幅広いネットワークで米国の大手法律事務所と提携し、日本企業の米国進出を多角的に支援。日本人経営者を対象としたリーガルセンスを磨くセミナーを実施し、YouTubeの配信なども行っている。



- Email: hnaito@mosessinger.com
- YouTubeチャンネル [久ラジ](#)
- [US LEGAL AID FOR LEADERS](#)
- [個人ブログ](#)



私の本棚

“The Man Who Died Twice”

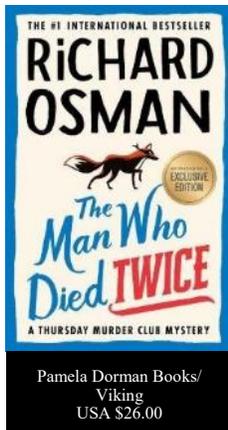
RICHARD OSMAN 著

あのじいちゃんばあちゃんたちが帰ってきた!
「The Thursday Murder Club」に待望の続編登場

読書にまつわる楽しみは様々ですが、大好きなキャラクターたちとの再会というのも欠かせない醍醐味の一つでしょう。ハリー・ポッターのように少年が主人公のシリーズであればその成長を見守ることもできますし、P.G.ウッドハウスのジューズ物であれば毎度変わらぬジューズの万能執事ぶりに舌を巻くという具合です。逆に一話読み切りの作品を読み終えて、このキャラクターたちとまだまだずっと一緒にいたいと思った経験のある方もいらっしゃるでしょう。

ガルフ2021年2月号で紹介した「The Thursday Murder Club」は私にとってまさにそんな作品で、読み終えた後、この愉快なじいちゃんばあちゃんの活躍をもっともっと見てみたいと願ったものですが、嬉しいことにその夢が現実になりました。作者のRichard Osmanさん、ありがとうございます!

ということで今回は「The Man Who Died Twice」を紹介しますが、まずは基本設定から振り返っていきましょう。物語の舞台はイギリス。英仏海峡に面した地方の丘の上に高齢者たちが暮らすRetirement Village



“Coopers Chase”があります。その住人(つまりじいちゃんばあちゃん)4人が結成したのがワイン片手に過去の未解決事件について語り合うという「木曜殺人クラブ」ですが、前作では村の周辺で本物の殺人事件が発生、クラブの面々が過去のコネや何やらを総動員して事件を引っかき回し、警察の裏をかき、やがて真相に到り着いたのです。

4人のメンバー、元労働運動の闘士ロン、一見無害そうだが実は抜け目のない元看護婦ジョイス、エジプト出身の元心理療法士イブラヒム、そして行動力抜群のエリザベスはいずれもアクの強いキャラばかりですが、中でもエリザベスは謎に包まれたキャラとして描かれていました。

今作ではそんなエリザベスの過去、MISの諜報員時代が明らかになるとともに新たな事件と謎が浮上します。事件の中心にあるのは国際的な闇ブローカーの邸宅から盗まれた2000万ポンド相当のダイヤモンド。そして殺人事件。かたや地元警察では麻薬密売人の捜査が進められている中、イブラヒムは地元の悪ガキにスマホを強奪された上に暴行を受けて倒れます。

木曜殺人クラブの面々は事件の謎を解けるのか、ダイヤモンドは見つかるのか、イブラヒムは怪我から立ち直ることができるのか、そしてジョイスは犬を飼えるのか?登場人物たちの軽妙な会話とともに複雑に入り組んだ謎が解きほぐされていく様は痛快のひと言に尽きます。

しかし、ただのドタバタコメディに終わらせないのがこの物語。記事の冒頭でハリー・ポッターの、少年の成長について書きましたが、年寄りにも変化は訪れます。体力は衰え、記憶も怪しくなりますが、一方で70歳を過ぎてからでもインスタグラムを始められるし、孫と一緒にゲームにだって挑戦できるのです。物語の終盤、ちょっと色んなことに疲れてしまった若手の女性警察官ドナがイブラヒムと会話するシーンは思わずジーンとくるものがあります。そしてタイトルでもある「二度死んだ男」が意味するものとは?

ラストまで読み終えたあなたはきっとこう思うはず。もっともっとこのじいちゃんばあちゃんの活躍を見てみたいと。

(編集委員 鶴飼 信)

シリーズ第1作の「The Thursday Murder Club」は「木曜殺人クラブ」の邦題で早川書房から発売中です。